

第3章 防災を科学する

(東日本大震災を考える)

2011年3月11日、私はテレビに映った光景に目を疑った。夜、空中から映し出された地上は炎に包まれ、それが延々と続いていた。2～3万人の人が亡くなったと感じた。しかし、これが午後4時頃でなく、深夜起こっていれば、犠牲者は倍の数になっていたと思う。東北では過去何度も津波に襲われていて、住民の防災意識も高く、防潮堤の築堤も進んでいたのに、多くの死者、行方不明者が出た。もしこのような津波が東日本に起こらず、東海から九州にかけて起こっていれば、しかも深夜から明け方にかけて起こっていれば、人口規模や防災意識の低さを考えると、百万人規模の死者、行方不明者が出たのではないかと思った。

3月11日を境に、津波に対する日本人の見方は変わってきたと思う。しかし、1993年の北海道南西沖地震や2004年のスマトラ島沖地震によって、津波の恐ろしさは、起こった時は皆知っていたはずである。何年かすると忘れ去られていただけの事である。科学がここまで進歩し、あらゆる情報が手に入る時代にあって、それから起こった福島原発の事故は、津波が来ただけで日本史上に残る大惨事となった。3月11日以降いろんな人が過去起こった津波についても調べるようになり、報道によって今回のような津波が過去にも起こっていたのを我々はここ1年で知ってきた。

私は、江戸時代の方が津波に対する防災意識が高かったのではないかと考える。漁師町では、家は高台に建てていたし、地方では庄屋や名主が過去の津波の被害を記録していて、住民の避難を誘導していた。日本は明治維新で、それ以前の災害の歴史を何かと一緒に忘れ去り、第2次大戦の敗戦で再びそれ以前の災害の歴史を忘れ去ったのではないかと思う。今後起こるであろう津波については、地震学者だけでなく、地質学者、歴史学者も加わり、人工衛星やスーパーコンピューター等を使って様々なケースに対応出来る防災システムを作っていくべきである。満潮の時とか、湾の入り込み方とか、何度も津波が来た場合とか（1854年南海地震では、大阪に3回以上の大津波が長時間にわたって来ている）、台風と重なった時とか、色々なケースでどの地域にどの程度の津波が来るのか、想定すべきである。

特に深夜起こった時の対応を考えておくべきである。津波を監視する人工衛星を打ち上げたり、必要があれば自衛隊が出動して沿岸に警告できるようにしていくべきであろう。又、災害の情報を得る為にラジオをあらかじめ用意する事も考えておかななくてはならない。その他、携帯電話のカメラのライト機能が懐中電灯がわりになる事を知っておけば役に立つと思う。

東日本大震災では、中学生が小学生を誘導して津波の被害から免れたり、近所の高齢で足の不自由な人を先ず逃したりと様々な美談報道を目にした。その中で中国のインターネット上で女川町の佐藤水産で働いていた 20 人の中国人実習生を専務の佐藤充さんが避難誘導して助け、専務は行方不明となっていると伝え、中国全土で話題になっている事を目にした。佐藤充さんは後に遺体で見つかったが、女川町は人口 1 万人の町で、1,000 人以上が死亡、行方不明となったが、十数社の水産会社にいた 160 人の中国人実習生は全員が無事だった。これ以降、中国の若者の日本に対する好感度がアップしたと思う。

今回の震災で、最も早く救助を申し入れた国はトルコである。1985 年のイラン・イラク戦争の時も戦争状態の中 215 名の日本人全員をトルコが救援機を出して救出した。これは、1890 年にトルコの船が和歌山沖で遭難した時、台風の中住民が決死の救出をし、69 名を救助した事による。今だにトルコ国民が一番好きな国は日本であり、120 年間続いているという事である。言葉のわからない外国人は災害に対して弱者であるので、まずそういう人から救うという日本人のすばらしさを実感した。

(岡山県知事への働きかけ)

東日本大震災が起こった月の 3 月末に、石井岡山県知事と岡山県下の各商工会議所会頭との懇談会有り、その席上、私とその 2 年前に書いた津波の文章を渡し説明した。その数日後、私は知事室を訪れ、私の調べた資料と備前県民局が以前作成した南海地震に関する冊子について説明した。その時私は知事に、地震による津波の被害が無いと思われる岡山県が国の防災計画の見直しを要望することによって、太平洋沿岸の自治体がもっと危機意識を持つようになれば良いですね、と話した。知事は 4 月初めさっそく防災の検討委員会を作り、5 月には内閣府を訪れ、国に「東海・東南海・南海 3 連動地震の被害想定や対策を示すよう」要望し、その事が報道された。知事に会った時、「備前県民局が作った資料を 2 部持っているのでは 1 部差し上げましょうか」と言ったところ「県が持っていると思うのでよろしい」と言われたが、後で聞いた話では、県のどこにもその資料は残ってなく、作成した人が聞かれたので渡したという事であった。

当時、経済同友会の委員会でも配っていたが、試しに聞いてみるとほとんどの人がもう廃棄していた。今考えるに、今作っているこの資料も 2～3 年するとみんな捨てられて、忘れられてしまうのかと思うと、少し淋しくなる。

さて、岡山県は 3 連動地震による津波の浸水影響範囲を広げ、津波の高さも従来の最高 3m から最高 1.5 倍と 2 倍で再計算し公表した。翌年、2012 年 3 月再び、石井知事と県下商工会議所会頭との懇談会有り、その席で私は次のような提言をした。

【提言】津波発生時に備えての広域連携

(一例として) 地震発生から岡山県に津波が到達する2時間までの間に倉敷から総社へ道路を一方通行にし、総社市内の学校等へ車を誘導する。その為に自治体、警察、消防、学校、交通機関等があらかじめ役割を決め対応できる態勢をつくる。
(広域連携) 県が主導して津波発生時に一人でも多くの命を救えるよう各地域で上記のような広域連携の態勢をつくる。

ただし、1993年の北海道南西沖地震では地震が近くで起きたので、地震発生からわずか5分後に奥尻島へ津波が押し寄せ、30分は大丈夫だろうと思って車で逃げようとした人が被害に遭った。太平洋岸では住む所により避難の方法をよく考えておく必要があると思う。

(山陽新聞への働きかけ)

東日本大震災があった翌月、山陽新聞社に私が2年前に書いた紙や津波に関する資料そして岡山県備前県民局の作成した冊子を持って行き、東海～日向灘連動地震による津波の警鐘を鳴らしてほしいとお願いした。

3ヵ月後新聞には、大きな見出しで「5m津波なかった？」と載っていた。1954年南海地震で秋岡惣五郎が児島郡で1丈5.6尺(4.5～4.8m)津波が来たというのは過去の解説の誤りではないか？というものである。(P5に秋岡家の文章を掲載してある)論点は三つある。

第一は、津波の規模の割には、岡山県に被害記録がほとんど無い。

第二は、朔日「十二月」よりは朔日「志ほ」よりの誤りではないか？

第三は、「その他海岸大損の由 児島郡にて朔日十二月より1丈5.6尺高く来りと後日承り候」という文章は後で書き加えた文章である事はわかっているが、直前に大阪や伊勢の津波被害を示す文語があることなどから、大阪などの他地域の津波の規模を、児島郡で後日聞いたという意味ではないか、というものである。

まず第一の岡山県に津波被害の記録がほとんど無いというのは、花房家の文書に「海辺は大津波上がり所に寄り人家とも引き退き申し由」の後に各地の被害状況が書かれてある。岡山市西大寺地区周辺に言い伝えが残っていないか調べることが出来ればと思う。そして大阪では被害を伝える瓦版が公開されるまで、たいした被害は無かったと信じられていた。

二番目は、「朔日十二月」なら「初日十二月」であろうが「朔日志ほ」だと「一年で最も潮の高い大潮の日」という意味になり、大潮より1丈5.6尺高く来たという意味になり、最も高い満潮より4.5～4.8m来たとなり、たいして問題にならない。

問題は、三番目である。まず「その他海岸大損の由」という文章は、海岸は大きく破壊されたという意味で「郡々破損所寄目録」によると、備前藩の内、城下町岡山以外の村々の被害で海岸堤防破損は、2,642mとあり、児島も海岸堤防破損はあったかもしれない。長尾氏の本によると、大阪の記録では夜何度も長時間にわたって津波が襲ってきていて、満潮と重なった可能性が高いとある。岡山でも同じように何度も津波がきており、しかも夜だったので津波の高さを見ることは難しかったのではないかと考える。そして児島と坂出は瀬戸大橋がかかっていることを見てもわかるように海の幅が狭い。又東から来た津波と西から来た津波が重なった所かもしれないし、児島の海岸は入り組んで切り上がった場所がある、など考えると津波が高くなる可能性もある。「5m津波はなかった？」のむしろ？に私は力点を置き、この文が児島の事を示している可能性もあると思い、今後も秋山家の文章は研究すべきだと思う。ちなみに岡山と大阪の最高津波高を推計する方法の1つに、1946年南海地震による岡山での津波最高が0.9mだったので、この時の大阪での津波最高が何mだったかわかれば岡山と大阪の比率が計算でき、大阪の最高津波高がわかれば岡山の最高津波高もわかるはずだ。

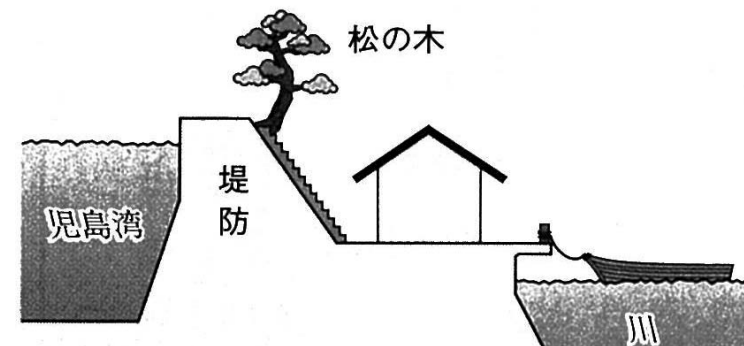
(昭和南海地震)

1946年発生した南海地震は、M 8.0で全国での死者は1,330人で岡山県では52人で4%を占める。意外と岡山県での被害が多く、岡山市が震度6で死者48人と殆どを占める。津波の最高は岡山市9幡港で0.9mで、津波による死者は無く、地震による被害である。来る4連動地震は、M 9.1の予想であり1946年南海地震の50倍の規模であり、建物の崩壊、液状化にも十分対処する必要がある。特に岡山市南部は揺れに対する訓練をすべきであると思う。

山陽新聞は、「昭和南海地震の証言者たち」と題したシリーズを2012年6月7日から掲載しているが、今原稿を書いている3日前の2012年6月8日に、辻数馬さんの話が載っていた。辻さんが家の前の堤防に上がって見ると通常なら干潮で10cmしかないはずの水位が50cmになっていた。当時の堤防は低かったから、満潮時だったら越えて被害に遭っていたと思うと載っていた。

新聞社が過去の南海地震の影響を知る人の話を記録していく事は、今後の地震に対する防災を考える上で重要な事だと思う。

当時の辻さん方 周辺のイメージ



(内閣府検討委員会の発表)

2012年3月31日、内閣府検討委員会は、次に来る東海～日向灘4連動地震をM9.1と予想した。満潮位を考慮した最大津波高を、太平洋側では概ね20m以上とし、高知県では、34mとした。いずれも2003年の予想に比べ倍にした。しかし、瀬戸内側である岡山県は3.4mを3.7mに、大阪府は3.2mを4.0mに上げただけで、広島県に至っては、4.0mを3.6mに下げた。これには私は不満が残る。

さて2012年3月1日に発表した四国地方整備局の津波高想定では、「瀬戸内は1m以下」と大きく見出しが出て、同局独自の津波シミュレーション結果では、地形により更に高くなる可能性があるが、瀬戸内沿岸で高さ最大0.5～1m、高知県で高さ最大11～12mとする結果が発表された。その記事を見て、私は「違う、おかしい?」とつぶやいた。津波高最高をだすなら、過去の記録を参考に最悪の場合を想定すべきだと考える。

(中央構造線)

中央構造線は、茨城県から大阪、四国北部を経て大分、鹿児島へ続く日本列島最大の断層である。

1596年9月1日、慶長豊後地震(M7.0～7.8)が発生した。その地震で別府湾の二つの島が消滅したと伝わっており、大津波が発生したと古文書にある。別府湾の地震による津波の影響が岡山にあるのか検証すべきである。

又同年9月4日に伊予地震(M7.0)が発生した。その後どちらも過去400年間地震が発生しておらず、相当エネルギーがたまっている可能性がある。特に伊方原発は中央構造線に近接していて、豊後地震による津波と直下型の伊予地震に耐える構造にする必要があると考える。

(海洋資源国日本)

夏は暑く冬寒い。そして地震に津波、火山の噴火と日本はとかく災害の多い国である。台風なんかは、時にはゴジラが日本列島を縦断したような被害をもたらす。しかし日本人の勤勉さは古代より日本人が孔子の論語を学んで来た事と、このような厳しい自然と共に生きてきたからであると思う。

大津波を起こす巨大地震は、プレートが沈み込む事により起こるが、沈み込む所にある熱水鉱床はレアメタルの宝庫であり、将来日本は資源大国となるだろう。

つい数日前、新聞の記事で西岡名誉教授が、巨大な船から海底に向け配管を伸ばし、海を巨大なダムに見立て水力発電をするシステム「ネプチューン」を発案したと載っていた。原発一基の10分の1で建設出来るネプチューン一基で10億キロワットの発電出力が見込まれ、原発千基分となる。数年前日本の科学者がシロアリの体内にいる微生物を使い、草や木材を効率良くアルコールに変える技術を発案したと報道された。これに限らず、日本の科学者はエネルギー生成に関して様々な新しいアイデア、技術を発案している。国はこの様な発案を具現化するよう、もっと予算をつけていくべきだと考える。

(大津波以外の4つの危機)

1つ目の危機—2009年7月に日本のトカラ列島付近の海上から皆既日食が見られた。その時、太陽の黒点の活動が小さかった事が専門家の間で話題になった。太陽は11年周期で活動が大きくなったり、小さくなったりしていて、2009年は活動が大きくなっていない年ではない年である。過去2000年を見ると、約350年毎に太陽の活動が弱まって、活動の周期が11年から12年になるとその後活動は弱まり小氷河期が訪れていることが歴史や木の年輪からわかってきている。前回の小氷河期は、1645年から1715年まで続き、イギリスのテムズ川が凍ったという記録があり、日本では飢饉が続いた。最新の研究データによると、太陽はここ20年間活動が低下し続けているという報告もある。広島大学の長沼毅准教授によると、今地球は氷河期にあたり、過去45万年を見ると、10万年の氷期と1万年の間氷期をくり返している。そして、今は間氷期になって1万年以上が経ち、いつ氷期がきてもおかしくないという説を唱えている。どちらにしてもそうなる食糧不足の問題が起こるので、今から食糧の生産方法を全く変えるという事も考えていかねばならないと思う。たとえば大きなタンクで作ることの出来る藻を主食に変えるような方法もある。

2つ目の危機—地球環境を守る為、CO₂の排出を減らそうとする運動が叫ばれて久しい。CO₂の排出が地球温暖化の原因と見られている事によるが、前述べた小氷河期がもし来れば、CO₂を減らそうという運動が意味が無いという考えが出てくるかもしれない。ここでCO₂が増加すると地球がどうなると考えられているのかお話する。CO₂が増えたと地球が温暖化し、南極と北極の氷が溶けてしまい、海の温度差が無くなる。そうすると海流の流れが止まってしまう、地球は氷期になる、というのが1つの理論である。CO₂の増加と地球温暖化の関係がどうであれ、CO₂の急激な増加は、生物の生存にかかわると考えられる。アメリカの地質学者が以前、太平洋の海底の地質調査をし、2000万年前に生物の殆どが死滅したと発表していた。その原因は地球全体で活発な火山活動があり、大量のCO₂が

短期間に地上に放出された事にある。人類は産業革命以降、CO₂の排出を増加していき、この100年で2000万年前と同じ量のCO₂を排出している。これからもっとCO₂の排出が増えれば生物への影響は計り知れない。

3 つ目の危機—夜空を見るとオリオン座の星の一つにベテルギウスという星が輝く。この星は地球から640光年先にあり、640年程前超新星爆発をしていて、今年2012年か2013年に輝いて見えるといわれている。この星は満月の100倍の明るさで3カ月間輝き、徐々に見えなくなる。640光年というと宇宙の中ではとても近い所で、このように近い所で超新星爆発をするのは10万年に1回の確率である。昨年世界中の天文学者が、このベテルギウスの自転軸の角度が地球に対して何度かを計算していた。もしベテルギウスの自転軸の角度が地球に向かって2℃以内なら、地球はガンマ線バーストによって致命的な被害を受けるからだ。地層から地球は超新星爆発によるガンマ線バーストによって4億4千万年前、当時生きていたサンヨウチュウの浅い海に生きていた分は死滅した事がわかっている。幸いベテルギウスの自転軸の角度は20℃だったので、地球には影響が無いと発表された。

しかし私は地球に影響があるかもしれないと思う。宇宙線は超新星爆発によって発生し、宇宙のあちらこちらから地球へ降り注ぐ。この宇宙線によって雲が作られるのだが、太陽の活動が低下すると磁力が弱まり、地球をおおっているバリアが弱まり、雲の粒が沢山出来すぎて大きな粒にならず、雨となって地上に下りにくくなり、雲が地球をおおって地球が寒冷化すると考えられている。そうすると、太陽活動の低下と超新星爆発による宇宙線の増加が重なると雲が地球を包い続け寒冷化する可能性があるのではないかと考える。他にこのように言っている人はいないだろうから3番目は危機でなく、単なる10万年に1回の天体ショーとなる事を祈る。

4 つ目の危機—日本では1975年には勤労世代7.2人でお年寄り1人を支えていた。これが2000年には、3.6人で1人を支えていて、2050年には1.2人で1人を支えるようになる。勤労世代はお年寄りだけでなく子供も、教育も社会システムも全て支えていかなくてはならない。この危機を乗り越えるには人づくりに尽きる。

ところが、近年子供の学力レベルは、以前は世界のトップレベルであったが、低下の一途をたどっている。その原因の一つに、私は使って良い漢字や読み方が年々増えている事も原因の一つではないかと考える。

私は、総社市の教育委員を13年程しており、教育委員長も7年したが、子供を表彰する時、ふりがなをつけていないと読めない子供の名前が急増している。これは名前に使ってもよい文字や読み方が毎年増えて、それを親が付けていくことによる。

中国を訪れてまず驚くのが看板に書かれた文字が略字でこれは毛沢東が奨励したものである。毛沢東は戦後の日本の繁栄の原因の一つに使える漢字を減らしたからだと考えていたのかもしれない。そして中国では子供が最初に習う文字はアルファベットだと聞いた。中国の唐が滅びたのは、官吏の試験を難しくするために漢字を増やし、数学や常識を覚える余裕がなくなって、官吏の質が落ちたのも原因の一つである。そこで日本では常用漢字を減らし、子供の名前にもアルファベットが使えるようにすれば、子供の学力はアップし、国際化も進むと思う。

国のシステムについて言えば、先進国の殆どが導入している国民に統一した番号をつけ、社会保障と納税の一体化を図るべきである。そうする事で行政の効率化を計る事ができ、税の無駄使いが減る。

他にも日本人が世界中の常識だと思われている事が日本だけか、もしくは数か国でしか通用しない制度がある。その一つは「バッヂ」をつける事である。明治維新で日本は西欧からいろんなものを取り入れた。イギリスからは議会制度と貴族制度、ドイツからは軍の制度、アメリカからは経済の制度、そしてフランスからはバッヂをつける制度である。フランスはフランス革命で貴族制度が廃止された後、勲章すなわちバッヂで身分を表そうとした。日本人が外国へ行った時、フランス、韓国以外の国では、バッヂをしているとカルトや特殊な集団に属していると思われることがある。

その他、昭和とか平成といった元号は今では日本だけでしか使われていない。元号は2100年前に中国の漢の武帝が皇帝が暦まで支配している事を誇示する為に作ったものである。昭和や大正の年が西暦何年だったか悩んだ経験を多くの方がお持ちだと思う。外国人にとっては複雑さは想像以上である。

戸籍制度についても、あるのは日本と日本がかつて統治した事のある台湾と韓国だけであり、国籍があれば必要ないように思われる。

国際化を進め、国のシステムを簡素化し国民の生活水準を維持していく為には「大きな改革」が必要だと考える。

(終わりに)

最初に戻るが、津波から逃れるには一刻も早く逃げる事である。そして予想以上に津波が早く来たり、大きかったりした時の為に浮輪代わりのペットボトル大を2個（自分ともう一人救う為）持つ事をおすすめる。

(参考資料)

山陽新聞(夕刊) 2008年(平成20年)12月3日 水曜日

一日一題 なんでも鑑定団 in 総社

総社商工会議所会頭

清水 男

昨年、総社市でテレビの「出張なんでも鑑定団」の公開収録があり、私はわが家に伝わる天正十(一五八二)年の年号入りの古備前の大甕で出演した。天正十年は秀吉の備中高松城水攻めのあった年で、私は備中高松城主清水宗治の兄の備後の守宗知の直系に当たり、わが家より清水宗治を輩出している。

収録当日、担当ディレクターからは簡単な説明があっただけで、リハーサルもなく出演順も知らされず、呼ばれたらステージに上がるという具合で、鑑定士にも鑑定品を事前に見せることなく、その場で初めて見せることを聞かされた。このような緊張感が、「なんでも鑑定団」という番組が高視聴率であり続ける秘けつであると思った。

私の古備前の鑑定は中島誠之助氏があたり、まず握手を求められ、「備中高松



◇筆者紹介(しみず・だん)ブライダル三松社長。米国チャプマン大学院修了、MBA取得。2004年から総社商工会議所会頭。総社市教育委員長。総社市出身。56歳。同市総社。

城水攻めで清水宗治は城に立てこもった五千人の命を救うため、毛利と織田の講和のため切腹し、その時ほかにも八名が自害した。そのご子孫に会えて光栄です」と話され、その博学に驚かされた。

放映の画面では、伝世品としては唯一のわが家に伝わる宗治と八将の肖像画が紹介され、大甕の鑑定結果は、百万円と言った私の予想に対し三百五十万円と高い評価を受け、備中を代表するお宝であると絶賛された。

中島誠之助氏の鑑定を間近で見、一流の鑑定士とは物が見えるだけではなく、諸学に通じていて、しかも人生哲学をちゃんと持っている人なんだと思った。

山陽新聞(夕刊) 2008年(平成20年)12月10日 水曜日

一日一題 販売士一級

総社商工会議所会頭

清水 男

販売士資格は流通業界唯一の公的資格で三級、二級、一級とあり、全国の年間合格者は三級が約二万人、二級が約一万入だが、一級は約百人である。

五年前、私はその試験に挑戦し、一年以内ですべての級に合格し、山陽新聞倉敷・総社圏版に大きく載った。一級は特に難しく、試験の半分以上が記述問題で、二級試験から三カ月後の試験であり、一気に

大学院と大学受験の時期であったため、範を示そうと思ったからである。

MBAの取得は、私が二十歳の時、父・清水丈(総社商工会議所初代会頭)が急逝したため、父の事業を手放し、大学卒業後に渡米。二年以上かかることを前期オールAで特別に一年で取得したという経緯がある。

勉強するにあたり心構えとして、五十歳を超えると人にたずねるのが恥と思うのが失敗の元凶だと言われていたので、わからないことは小学生にでも聞くことにした。そして眠らず勉強する。

すべて取得した例は全国でまれである。

私は、ブライダル三松と式場案内ダン、ジュエルダンの社長をしており、総社商工会議所副会頭(当時)や総社市教育委員長のほか、数々の団体の長を務め多忙を極めていた。その中で販売士の試験を受けようと思ったのは、MBA(経営学修士)取得以来三十年ぶりに勉強しようと思ったとき出合ったのが、販売士三級のテキストであったことと、子供二人が

次に、米国での生活を思い出すと、当時アメリカ人はテレビをあまり見ないし、新聞も週一回配達されるだけだった。二カ月間テレビを一秒も見ず、新聞も一切読まず、学習内容をボイスレコーダーに吹き込み、車の運転でも、どこでも常に聞いていた。一念発起して勉強するなら、このくらいやらなきゃ、と思う。

サラ金・ヤミ金

昨年は岡山大学大学院で脳科学とシヨッ
ピングセンター経営について講義をし
た。今年は総社小学校六年生に租税教室
の授業をし、どちらも学生や児童が熱心
に受講し、心のこもったリポートや感想
文をいただき感激した。
小六の授業では、税の歴史を弥生時代
から現代まで時代観を交えて教え、その
あと児童に計算機を持たせ、サラ金で五

総社商工会議所会頭

清水 男

十万円を20%の利子で借り続けると二十
年後にはいくらか計算させた。

答えは約二十万円である。児童は驚い
たが数年前までは上限金利は29%で、そ
の計算でいくと八千万円になる。

現在、消費者金融で借金をしている人
が千六百万人、そのうち一割の人が多重
債務者で、税金も払えない状態にある。
大人になったらできるだけお金を借りな
いようにしようね、と教えた。

二〇〇三年、大阪府八尾市に住む老
夫婦と妻の兄が線路上にうずくまり、
電車にはねられ即死した。妻の遺書に
は「毎晩毎晩電話におびえています」
などと記されていた。消費者金融に多
額の借金があり、ヤミ金融の誘いに乗
った主婦は一万五千円を借りたが、毎
週一万五千円の利子であった。その利
子の比率で借り続けると百日後に三億
円、一年後に七千万円（京は兆の上の
単位）になる。このヤミ金組織のトッ
プは先月逮捕され、約五十億円を集め
たとされる。他の事件では、暴力団の
下部組織がヤミ金で一千億円を集めた
と報道された。

日本ではねずみ講、ヤミ金、そして
現在は振り込み詐欺と新たな犯罪が考
案され、被害が拡大してから立法措置
がなされるが、もっと早く対処してい
れば被害が少なくて済んだと思う。そ
の意味で政治家、マスコミの今後の果
たす役割は大きいと考える。

一日一題

向刺激社会

現代の技術革新のスピードは目を見張
るものがあり、特にIT（情報技術）の
進展により現代は情報化社会と言われ
ている。しかしこの半世紀を見ると、繁栄
とともに人は刺激を求め、それがどん
どんエスカレートして、私の造語だが、
現代は「向刺激社会（Rise Stimulus Society）」とも呼
べるのではないかと考える。

三十六年前に亡くなった私の父は大の

総社商工会議所会頭

清水 男

プロレスファンで、力道山と大変親しく、
結婚式にも招待されたほどで、五十年前
わが家に泊まったことがある。力道山が
民家に泊まることはほかには無かったと
聞いており、当時五歳の私が力道山のひ
ざの上に抱かれている写真が今でも残っ
ている。

その後、力道山と嘯みつきブラッシー
の戦いがテレビで放映され、力道山が流
血したのを見た老人が二人ショック死し

たという記事が新聞に載っていた。当
時は白黒テレビしかなかったのに、で
ある。

現代の映画やドラマで首がとぶシー
ンがあっても、それを見てショック死
する人はいない。テレビを見れば、映
画やドラマの殺人や残虐シーンがま
ます増え、ニュースでも殺人事件や死
亡事故の報道が多く、すべての番組を
合わせれば、一日にいったい何人が死
んだら負傷しているのか。暴力、犯
罪はエスカレートする一方で、テロリ
ストの犯罪もジェット機で高層ビルに
突っ込むなど過激になっていて、その
うち原爆でも使いたくない状況になっ
ている。

アメリカでは暴力や残虐シーンの放
映が禁じられているが、日本では全く
規制が無いばかりか、さらにエスカレ
ートしている。

国民が刺激を求めている限り向刺激
社会は続くだろうが、どこかで規制を
しないと犯罪の凶悪化は止まらないと
思う。

一日一題

一日一題 名前にアルファベットを

総社市には文化功労者として顕彰された書家の高木聖鶴氏が住まれ、岡山県に在任して顕彰された芸術家は唯一である。その先生に毎年総社市の小学生の税に関する書道展の審査をお願いし、表彰状の名前を自筆で書いていただいている。それは大変価値のあるものといえる。

毎年、私が会頭賞を授与するのだが、

総社商工会議所会頭

清水 男

近年ふりがなをつけていないと読めない子供の名前が急増している。これは名前に使ってもよい文字や読み方が増えて、それを親が付けていくことによる。

中国を訪れてまず驚くのが看板に書かれた文字が略字で、これは毛沢東が奨励したものである。そして子供が最初に習う文字はアルファベットだと聞いた。

中国の唐が滅びたのは官吏の試験を難しくするために漢字を増やし、数字や常

識を覚える余裕がなくなつて、官吏の質が落ちたのも原因の一つである。

日本では平安時代にながが發明され、王朝文化が花開いたし、戦後常用漢字を少なくして、経済発展を遂げた。このまま常用漢字が増え続け、新しい造語が増え続ければ日本語は暗号化して、誰にでもわかる言語でなくなるのでは、と危惧される。

私を表現する言葉は英語では「I」だけだが、日本語では十や二十は思い浮かべることができる。漢字は何千何万とあるがアルファベットは二十六文字だけである。私は明治維新でなぜアルファベットを常用語に取り入れなかったか疑問に思う。

日本が繁栄し生き残るためには、語学力は必須である。現在日常生活でアルファベットは頻繁に使われている。そこで、子供の名前にも、アルファベットを使えるようにすれば、アルファベットは一気に広がり、新しい文化が創造できるのではないかと考える。

一日一題 東南海・南海地震

東南海・南海地震は、今後三十年以内に50〜70%の確率で発生すると国が予想している。その予測規模はM8・6で阪神・淡路大震災の約百倍の大きさになる。その地震は東南海地震と南海地震が連動して起こるものであり、百〜百五十年ごとに発生している。

岡山県備前県民局の資料によると、一八五四年にM8・4の南海地震が起きた時は、岡山県内で最高五層の津波が発生

総社商工会議所会頭

清水 男

した。次に起きる地震はその二倍の大きさで、それ以上の津波が岡山に来る可能性があり、地球温暖化による海面の上昇や、岡山県が他県に比べ干拓地が多いことを考えると、その被害が心配される。

昨年九月にニュースで、インドネシア・スマトラ島沖でM8・4の地震が発生し、五層以上の津波が発生したと報じられた。数年前に発生した地震ではインド

ネシアで二十二万人が死亡したのに対し、犠牲者は十人ほどであり、犠牲者が少なかったのは、前回の地震の教訓で、地震発生直後に住民がただ逃げたというのが理由である。

徳島県の旧家に伝わる文書には一五二一年から一八五四年までに起きた四回の地震の記録が残っている。最初の地震の津波では、その地域の三千七百余人が亡くなったが、最後の地震の津波では高さが九層あったのに亡くなったのは八人であった。この違いは「津波は矢よりも速く襲ってくるので、何一つ持たず、手近な高い所に避難すべき」と伝えたことによる。

地震被害の中で津波の恐ろしさを認識し、一人一人が家族や知人を助けるために、住居や仕事場の海抜や状況を調べ、自分ともしう二人の命を救うため、浮輪代わりのペットボトル大を二個持って、近くの高い所へ逃げる訓練をするべきだと思う。

一日一題

論語と日本人

総社商工会議所会頭

清水 男

国際貢献で活躍されている方から以前、「海外へ災害援助に行ってお金を任せられるのはアメリカ人と日本人だけである」と聞いたことがある。アメリカ人は世界の警察官だと思っているからじゃないか、じゃあ日本人はどうしてだろうと考えた時、日本人は論語の影響を受けているからではないかと思った。

日本の古代を見ていくと、孔子の言行

を集大成した論語が日本に伝わったのが二八五年で、五三八年に仏教が渡来するよりずっと以前であり、その間日本人は論語ばかり勉強していたのではないかと考えられる。

学校で習う漢文で最初の文は、論語の「子曰く、学びて時に之を習う、亦説しからずや。朋遠方より来たる有り、亦樂しからずや。人知らずして慍みず、亦君子ならずや」である。「学んだことを機

会あるごとに実践、復習していけばやがて知識が自分のものになる。それは何と喜ばしいことか。親しい友人がわざわざ遠方から訪ねてきてくれた。何と楽しいことか。自分が正しいことをしているも世間は誤解、非難をするかもしれない。天も怨まず人も咎めず、自分の信じるのに向かって行動するのが君子である」と孔子は言った。

孔子は学習の大切さ、友情の大切さ、そして正義感を持つことの重要性を説いた。その教えは現代にも通じ、日本人の精神構造を形成する上で大きな影響を与えてきたと思う。

昨年私は総社市議会で教育委員長として答弁する機会があった。私は「孔子は一生を通じて守らなければならぬ言葉は恕で、それは自分にしていけないことを他人にしてはいけないことだと言った。私はその気持ちを持つ子供を育てたい。そして教育とは深い愛情と強い正義感を養成することだ」と述べた。

一日一題

釈迦の遺言

総社商工会議所会頭

清水 男

私は平成元年に総社青年会議所の理事長をしていた時、岡山県立大学の総社への誘致を提唱し、さまざまな活動をして誘致に成功した。その年には市町村合併の研究誌を作るなど、総社青年会議所で九つの新事業を行った。翌平成二年には時間に余裕ができ、世界の四大宗教の創始者に関して勉強し、釈迦の遺言を知った。

インド原始経典、長部経典によるとそ

れは「すべては無常である。怠ることなく実践し、それを完成しなさい」である。釈迦はある時「私の言葉はそれぞれの人が独自に解釈してよい」と言ったと大乘経典にあるが、私の解釈では「世の中も人も常に変化している。その変化を見極め、あなたの目標に対し常に努力して行動し、目標を完遂しなさい」となる。

平成十七年、経営学を創ったと言われ

るピーター・ドラッカー氏が現役の大学教授として九十五歳で亡くなった。彼は「イノベーション（革新）」とは変化を機会として利用するための手段である」と言った。日本の戦後復興にも企業に経営のアドバイスをして貢献したが、「ビジネスチャンスとは変化を好機としてとらえることである」と言っており、釈迦の遺言に通じる。

さて、現代は精神的な病に悩む人は多い。その多くが過去の不幸を引きずっている人だと思う。今は変化の激しい時代で、誰でも精神的に不安定になる時はある。周りの人や本人がそれを病気だと思うところから病になっていくと考える。不安定になっていたことがわかった時点でその人はもう正常なのだ。釈迦がある時「過去は過ぎ去ったものであり、未来はいまだ至っていない。現在の状況をそれぞれよく観察し、今なすべきことを努力してなせ」と言った。釈迦の遺言とセットに考えてみると、生きる道標の一つになるのでは、と思う。

参考文献・参考資料

- 岡山県南部における南海地震の記録 備前県民局、2007年5月発行
- 岡山県通史 岡山県 昭和5年発行
- 市史等「都窪郡史」「昭和町史」「吉備郡史」「清音村史」「常盤村史」「上房郡史」「総社市史」「総社再発見」「岡山県水害史」等
- 岡山県気象災害史 岡山気象台作成資料
- 瓦版にみる幕末大坂の事件史・災害史 大阪城天守閣
- 水都大坂を襲った津波 長尾 武 平成18年発行
- 安政南海地震津波の教訓 長尾 武 大阪市史 大阪市
- 地震の事典 編集 宇津徳治・嶋 悦三・吉井敏剋・山科健一郎 朝倉書店
- 山陽新聞
- 日本経済新聞

資料作成につきましては、総社市総務課、総社市教育委員会、総社ライオンズクラブ事務局・株式会社三松事務局にご協力いただきました。

東南～日向灘4連動地震の津波対策と 総社市域の災害の歴史

2012年8月発行

編集・発行 清水 男

〒719-1126 総社市総社1033-1

電話 0866-92-2418